

学生会、意見書を提出

13日 理事会と共同声明発表

法人理事会と学生会中央執行委員会(昼間部学生会・大内義男委員長)

眞長(長)は三月二十八日、三十一日の両日、駿河台本校第二会議室で二・二協定第一項に基づく話し合いを行なった。

二十八日、午前十時から、法人側からは長野理事長、武田総長、小出学長ら常勤理事が出席、学生会側も大内委員長ら十名が出席した。この日、学生会中執から三月二十五日付で法人理事会へ提出された意見書(二面参照)についての趣旨説明が行なわれ、質疑の後、午後二時二十分、話し合いを終えた。

三十一日は、午後五時三十分から開かれ、学生会中執意見書に対する理事会の見解が述べられた。このあと、四月十三日(予定)に共同声明を発表することを約し、八時に話し合いは終了した。大内義男委員長談 意見書は団交の継続として行なったものである。この中で問題点を提起し、

大きな項目AからGまで認められれば細部については今後団交によって話しを進めてゆきたいと思っている。

協定(2)破棄を決定

24日 二部学生会大会開く

学費値上げ反対、白紙撤回を要求する学苑会(夜間部学生会・酒田征夫委員長)は、三月二十四日午後七時四十分から臨時学生会学生大会を駿河台本校九一番教室で開いた。

大会は開催予定の午後六時に法学部、商学部が姿を見せず、また試験日も近づいているた

ついで、法・商執行部の大会破綻に対する抗議決議を可決、スローガンを採択し十二時二十分に閉会した。この後約七〇人が提案の水の交差点までデモを行ない氣勢をあげた。

英会話
USセンター
(361) 8239

め代議員の出席が過半数に達しなかったため遅れ、七時四十分、一〇名の代議員の出席によってようやく大会は成立し、開会された。まず、議長団に上原敦男(政経三)、鈴木雄作(法三)、佐藤広(文三)の三君を選出した。続いて酒田中執委員長から二・二協定を破棄し、学費値上げ反対闘争の再確認し、意見の一致を図ることとの挨拶があり校歌斉唱ののち近藤副委員長から学費問題に関する経過報告がなされ、質疑応答が繰り返えされた。九時十分、法学部執行部に対する弾劾決議案が否決された後、中執提案による二・二協定破棄の特別決議が圧倒的多数で可決された。

二十二日に団交要求

学苑会理事会に処分問題で

学苑会中央執行委員会(酒田征夫中執行委員長)では、九日午後七時から総務部学生會館第2会館で学苑会理事の中間報告集会を行ない、学費値上げ反対・二・二協定放棄・不当処分反対闘争を引き続き行ない、二十三日に理事会(即決)を要求することを決定。同日午後九時五分からの公開記者会見の席上、酒田委員長は六月末期限的授業放棄、九月末には再度ストライキに突入する態勢を整える旨の発表を行なった。

この日の中間報告集会には約四十名が参加し、酒田学苑会中執行委員長からこれまでの活動経緯の報告がなされた。同委員長は「五月十六日に同学生會館五階ホールで二・二部合同公開討論会を開き、法入理事會との団交を三日前午後六時から行なうことが決定された。集会后、参加者はデモ隊列を組んで学内をデモし、

学内の反動化に対処する旨の発表がなされた。このほか、処分問題については別紙の声明が提出された。

なお、学苑会では体育会OB会、校友会、校友会代議会の決定事項、二部共闘会議、全学闘争委員会、解散命令、理事会、学部長会、運動部入会などに対し抗議を出し、ほか、大内学生会中執、委員長に「自己批判」を要求する文書を送り、各関係部会に郵送することを決めている。

酒田征夫学苑会副委員長は「この闘争は長くはかたしと思うが、一年続ければ年終ストライキに突入

で白紙撤回運動を推進してゆくつもりだ。六月には期限的授業放棄、九月には再度ストライキ態勢をとれるよう全学的闘争を展開しなければならぬ。

委員会(大内務委員長)は、武田委員長出席のもと、顧問台本、大内務委員長出席のもと、後記者会見を行ない四月十四日に入理事會との間で確認された。根本方針決定についての説明がなされた。

英会話
US
センター
(361)
8239

根本方針決定 で記者会見

四月二十八日、学生会中央執行

学苑会声明

不当処分の動向が四月三十日朝新聞の朝刊で報じられた。それは人心一新のために学生を十数人処分し理事会も総辞職するという内容であったが、この無理心中の総辞職と処分は、学費値上げのもつ本質的内容を隠蔽するに、理事会の不当性を、学生を処分することによってすり替えるという極めて悪辣な企図である。また、学生を処分するこの事柄で、学内の良識的な教授・職員に対してあらゆる手段をもつて排斥を加えている。これは学内の派閥争いの醜い一面面であるが、

な、暗黒の明治を招来する一布石である。

現在進行中の二委員会の実体化は、明大の教育の反動化を遂行すす押し進める役割を担っている。つまり、二部五年制、授業時間増、職制強化、合理化、賃金抑圧、学生運動員会に対する強圧、組合の分断等を意味する(政府文部省)は、理事会として都合の悪い明治大学に受け入れる下地を作りあげたものである。学生の利益と対抗するものである。われわれは、理事会にとって都合の悪い明治をつくろうとしていることを絶対に許さない。

われわれは「人心一新」というペールをかぶり、理事会の都合によってわれわれの権利を踏みにじるこの不当処分に対して、断固たる決意をもち、今後も闘うものである。

われわれは、二委員会の実体化を阻止し、その実体化を容易ならしめんとする処分に対して、本日より新たな態勢でわれわれを擁護し、粉砕することを宣言する。

昭和四十二年五月九日
全二部共闘会議
学苑会中央執行委員会
五・九学苑会中間報告集会

クラブ問題など討議

研連・理科連でリーキャン

サークル連合体の組織拡大、親睦を計るためのリーディングキャンプが今年も行なわれている。

【研連部連合会】(諏訪委員長)四月二十九日から五月三日まで長岡原古見町の信濃寮で二十四名の参加のもと、八回リーディングキャンプが開かれた。講師には大島田人副学生部長、松山虎次郎二部教務部長、菅井幸雄副副学生部長ら五名、学苑会からは酒田征夫中執行委員長、水六項目の要請書を作成した。

【理科部連合会】(古賀彰委員長)四月十八日から二十一日まで箱根仙石原「紅葉園」で約九十名が参加し、第五回リーディングキャンプを行なった。これにはアドバイザーとして高木龍一工部部長ほか七名の教職員も参加し、①理科連の在り方②サークルの在り方(内在する諸問題と対応)③学生会連④大学寮一など

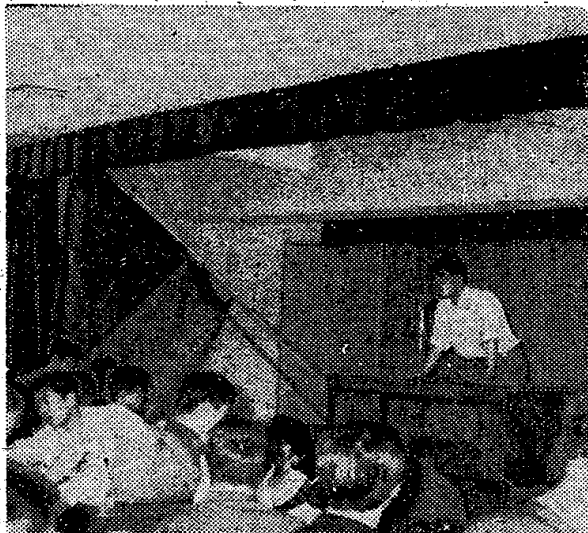
【理研部連合会】(古賀彰委員長)四月十八日から二十一日まで箱根仙石原「紅葉園」で約九十名が参加し、第五回リーディングキャンプを行なった。これにはアドバイザーとして高木龍一工部部長ほか七名の教職員も参加し、①理科連の在り方②サークルの在り方(内在する諸問題と対応)③学生会連④大学寮一など

【理研部連合会】(古賀彰委員長)四月十八日から二十一日まで箱根仙石原「紅葉園」で約九十名が参加し、第五回リーディングキャンプを行なった。これにはアドバイザーとして高木龍一工部部長ほか七名の教職員も参加し、①理科連の在り方②サークルの在り方(内在する諸問題と対応)③学生会連④大学寮一など

【理研部連合会】(古賀彰委員長)四月十八日から二十一日まで箱根仙石原「紅葉園」で約九十名が参加し、第五回リーディングキャンプを行なった。これにはアドバイザーとして高木龍一工部部長ほか七名の教職員も参加し、①理科連の在り方②サークルの在り方(内在する諸問題と対応)③学生会連④大学寮一など

砂川で総決起集会

三派系 全学連 28日には現地闘争を



三派系全学連（社会主義学生同盟・マルクス主義学生同盟入中核派）・社会主義青年同盟は五月十六日午後六時三十分から中央大学生会館六階ホールに約三百五十名の学生を集め、砂川基地拡張を阻止する全学連総決起集会を開いた。

全学連書記局（委員長・秋山勝行）横国大四年は、五月二十六日砂川基地拡張反対全国学生統一行動、二十八日には砂川現地闘争を労働者地元と連帯して行なうことをすでに決定しており、この集会は意識統一を目的として行なわれたもので、参加校は本学をはじめ日大、横国大、法大、東大

駒場、中大など。

この日の集会は、まず成島副委員長（静岡大学文学部四年）が挨拶にたち、大衆的な闘争による砂川基地拡張を美力阻止、ベトナム反戦などをアピールし、続いて秋山委員長は「砂川基地闘争でアメリカ帝国主義者、日本帝国主義者に強い打撃を与える闘争を展開する。一九七〇年安保（日・米安全保障条約）再改訂の勝利のために五月二十八日の砂川現地闘争を勝利しなければならない。旨の挨拶をした。その後討論に移り、ベトナム反戦、砂川基地闘争を同一の形態のものとしての砂川闘争の位置づけとし、国際情勢を中心として三時間にわたる討議がたがわされた。

次いで書記局が決定した統一行動を了承、現地闘争の指揮者の決意表明がなされ午後十時十五分集会を終えた。

秋山全学連委員長談、春闘が低迷

しているのが残念だが、砂川基地闘争は重大な任務を持っていると願う。またこの闘争は当局との公然たる衝突が予測されるが、労働者地元とも連帯して闘うものである。

「事情聴取」が始まる

学生処分は六月に発表か

本紙特別記者会見の席上、長野 行なっている。

本紙特別記者会見の席上、長野 行なっている。

国助理事長が学生処分後に聘任したい、とのべたことから、学生の処分問題がクローズアップされている。各学部教授会とも、組織責任として学生処分を行なうか、個人責任問題として処分するかは公表を避けているが、現在、法・政経・経営学部の三教授会は「事情聴取」という形で学生の招集を

大内学生会中執委員長が休学届提出

大内義男学生会中央執行委員長（元全学連委員長）は、五月初旬、生田工学部事務等に休学届を提出した（理由は経済的理由）。しかし、処分問題などがかちかちしているため、また正式には受理されていない（工学部事務室談）。

注目される学生会の動向

中執内部、対立の兆し

波紋よぶ大内委員長の休学

新学期もはや、一月、各学生団体の動きも処分問題をめぐり活発化して来た。その中で特に注目されるのが、学生会（層閣部）生自治会（中）の動向である。

五月下旬、大内委員長が休学届が提出され、このほか工学部教員会でも正式に受理された。この事態は、二・二協定（以下略）

来沈沈を穿つていた中執員の中に、学生を離れ、運が高まり、二・二五の同日中執員が招集されたが、同日とも定足数は足りず流会した。この結果、中執内部の対立は進展、今後の成り行きが注目される。しかしながら、遅くとも今月中には中執会議を開き、新委員長を選定するものとみられている。

【解説】二・二協定（以下略）以後、沈滞して来た学生会中央執行委員会（大内委員長・工四）は、これまで新入生クラスなどで情宣活動を行ってきたが、処分問題、大内委員長の休学届提出を契機に一段と活動が活発化している。

【解説】二・二協定（以下略）以後、中執会議を開くという呼びかけ、二十三日第一回中執会議が、駿河台本校学生会館で開かれた。中執員がその日も参加せず流会した。予定どおりだが、当日は定足数に足りず、定員千四百名（現在卒業生・退学・休学などを除けば二百名）を要する。これは、生田地区（工・農学部）の中執委員八名が出席しなかったため、駿河台本校へ参集した中執委員数名が生田出席したが結局閉会した。二十五日、再び中執会議を開く予定である。

この流会の直接の原因は、生田地区中執委員のボイコットにある。中執委員の両者間には完全な亀裂が生じている。この両者の対立は、大まかに二・二協定を肯定する（止めを得なかった）と、否定（大衆的に確立されてい）に分かれ、否定的な側と、肯定的な側とに分かれている。流会後とも、学費、学生処

の対立は集約される。これに委員一分、をめぐりこのような動きを示す。長の後任問題、中執会議の招集、学生会費の運用問題などが、中執内部の対立に進展している。しかしながら現在、中執委員とも学生団体の対立は、二・二協定には又回帰している。今月中にはメドがつかぬものとみられている。ともあれ、この二・二協定の流会後とも、学費、学生処

2・2協定破棄を決定

短大学生大会開かれる

昭和四十二年 度前期定期短期 大学生大会は、二十五日午前十時三十分から駿河台本校九一講堂で開かれた。大会は、出席代議員三二二名、委任二七二名、委員四一五名と大会成立。まず議長団（三名）が選出された。次いで新執行部を起立多数で承認した。

続いて二・二協定（覚書）について賛成者がなされ、一〇六対六一（委任三七）で二・二協定破棄を決定。そのほか不当処分反対、短大学生会の創造的再建を⑧砂川基雄教授反対の米帝のヘトナム侵略戦争反対などを決めた。

午後一時五十分大会を終了した。新執行部員は次の通り。

委員長 山内 啓美（工四）
副委員長 板倉 孝子（生二）
事務局長 岡部 三洋子（生三）
山内 啓美委員長、金生田の手で形成された大会は有様だった。今後は短大学生会の創造的再建を勝ち取らなければならない。

31日に学苑会大会

中執・反中執の反目強まる

学苑会中央執行委員会、役員部、学生会、酒田征夫委員長（政四）年）では三十一日、午後六時から駿河台本校九一講堂で約三十名の参加で、定例学生大会を開催する。この日、五月十日の決議を告示した。

この学生大会の議題は学費値上げ反対闘争の経過報告、財政、本年度の基調、役員改選などを議題としている。

現在、中執では役員改選人事について検討を急いでいる。

一方、反中執では、副学部長執行部との票争めは、かなり激化した。

法人理事会 回交を拒否

学苑会、抗議集金闘争、本校学生会館前で約三十名の参加のもと抗議集会を開いた。

この抗議集会は、学苑会中執がさる十六日、法人理事会に申し入れた回交（二十三日、午後六時）

これは、現在、双方とも懸念の（一）を二十二日をもって、回交段階に入っている。このため、二十八日の定例会は、かなりの混乱があるものと予測されている。

これは、同中執が三月十四日の学苑会臨時学生大会の学費値上げは、向う解決しては、二・二協定は破棄すべきの決議に基づき、⑨学費値上げ問題（二・二協定）の処分その他内情勢について話し合いの場をもつよう要請して来たもので、法人理事会は、学費改訂に関する生利とのべちが、四月十四日をもって双方合意をみた。⑩現在集金に基づいて

第一段階である学内諸問題に関する根本的な改善方針の具体案を検討中である。ただし、いまさら学苑会の申し入れをもう話し合いの必要は認めないとの見解を立って回交を拒否したものである。

また、駿台教員会、文学生会が各教授会回交を申し入れた。したがって各教授会とも、応じないとの回答があった。

この日の抗議集会は、処分問題、二・二協定破棄化による学生自治への弾圧、介入が激化していると、法人再建理事会回交を要求しようとするものである。

酒田征夫委員長、今度の定例大会には学苑会との中間総括を始め、内情勢から国際情勢、卒業、人事などを議題（あびる）もっている。

また、理事会、教授会から回交を拒否されているが再度回交を要求するつもりだ。